

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	KSC男声合唱団第9回演奏会	KSC男声合唱団	4月20日	神戸文化ホール大ホール	<p>阪神・淡路大震災からの復興30年、「新たな時代へ CHALLENGE」(副題)第9回定期演奏会を開催。 2025年は震災30年にあたる。ひょうご安全の日推進事業の1事業として震災の教訓、防災意識の啓蒙・伝達を行った。</p> <p>①1.17ひょうご安全の日の宣言」文をプログラムに同封し来場者への啓蒙活動を行った。</p> <p>②コンサート会場入り口に当団が所属するボランティア組織の災害復旧・復興支援写真集の展示を行い活動の一部を紹介する。バックで当団の指揮者だった小嶋直作曲の神戸震災の鎮魂歌を流した。</p> <p>③会場で復興30年の紹介を兼ねて2025年の「1.17ひょうご安全の日宣言」を読み上げた。</p> <p>④震災ステージでは、阪神淡路大震災被災者の鎮魂と災禍からの復興を強く願って作詞・作曲された曲「しあわせ運べるように」を観客と一緒に歌う。また、南相馬の子どもたちが東日本大震災によって離ればなれになってしまった仲間を思って、つぶやいたり、書き留めた言葉を、小高中学校の小田美樹先生がまとめて、曲をつけた作品の「群青」を歌った。</p>	1243
神戸	地域	神戸男声合唱団第48回定期演奏会	神戸男声合唱団	10月18日	神戸文化ホール大ホール	<p>神戸男声合唱団(団員71名)は、毎年10月に神戸文化ホール・大ホールにおいて定期演奏会を開催。</p> <p>今年は、阪神淡路大震災から30年の節目の年ということで、30年目の祈り。約束～その歌をこうべから～と題して4つのステージの最後に「神戸の合唱団として、あの日の記憶を語り継ぎ、日々を大切に生きることを」テーマに歌った。</p>	1715
阪神北	全県	第31回兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)犠牲者追悼のつどい あなたの思いを灯してください ～失った命の数をロウソクの灯火に込めて～	ボランティア団体 ユー・アイ・アソシエーション	1月16日～1月17日	伊丹市昆陽池公園南広場	<p>・ろうそくによる追悼行事 追悼とともにいかにして生きるかという開催テーマをもうけ、命の尊さ、減災への啓発、継承のテーマに沿ったメッセージをロウソクで絵にする。</p> <p>・ハル展示 ボランティア活動等の展示</p>	2200
神戸	全県	全国個別避難計画作成研修	一般社団法人兵庫県社会福祉士会	7月1日～3月31日	オンデマンド研修	<p>高齢化や社会福祉施設等からの地域移行が進み、地域で暮らす避難行動要支援者が、増加している。災害リスクを正しく理解し、避難行動要支援者と共に避難するための知識とスキルを身につけるオンデマンド研修を実施。</p> <p>福祉専門職や自治体職員等と協力して個別避難計画を作成し、「誰一人取り残さない防災」を目指して、地域住民に働きかける手法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害と災害対策基本法 2. 避難行動要支援者の理解 3. 大分県別府市の避難行動要支援者支援の取り組み 4. 避難支援等関係者連携の重要性 5. 地域における個別避難計画作成の実際 6. 令和7年度災害対策基本法等の改正について 	50

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	第16回全国学生防災書道展	全国学生防災書道展実行委員会	2月6日～2月8日	兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー	<p>全国防災書道展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災救命や復興支援、自然災害に関わる文言や表現を題材にした書を各県教育委員会を通じて、全国から公募 ・優秀な防災書道作品約650点を選考し、展示 ・文部科学大臣賞、復興大臣賞、県知事賞など賞を設け、表彰式を行った。 	3000
阪神南	全県	#32 青い空の真下で2025～阪神・淡路大震災30年記念公演～	Gーフォレスタ	6月28日～6月29日	新開地アートひろば 2Fホール	<p>阪神・淡路大震災後、尼崎の仮設住宅で実際に起こった「事件」を下敷きに仮設住宅に住む人々の生活を描いたお芝居「青い空の真下で2025～阪神・淡路大震災30年記念公演～」を上演。</p> <p>6月28日(土)～29日(日)2日間・4ステージ</p> <p>震災から5年目に旗揚げ公演として上演、10年目には「阪神・淡路大震災10周年記念事業協賛公演」として、20年めにはコロナ禍のため「リーディングシアター」という形で上演し続け、今回は30年目5度目の公演。</p>	320
神戸	全県	レスキューロボットコンテスト2025	(一社)アール・アンド・アールコミュニティー	8月9日～8月10日	神戸サンボーホール	<p>レスキューを題材としたロボットコンテストの開催と講演や併設展示を通して、次世代を担う学生や子供たち、彼らを見守る保護者などあらゆる年齢層に対して防災・減災の重要性を啓発し、さらには将来の防災・減災へ貢献できる人材育成を通しての科学技術のすそ野拡大を目指す。</p>	3506
東播磨	地域	防災事業	一般社団法人 明石青年会議所	6月15日	明石公園 東芝生広場	<p>阪神淡路大震災の当時の状況を写真パネルにより振り返り、災害VR映像により疑似体験をし、災害に備えて避難経路、緊急時集合場所マップを作成し、災害時の食事の準備の方法を知る機会を提供し、また、災害後のボランティアの案内を行う。</p>	410
神戸	全県	阪神淡路大震災継承事業・講演会「震災を語り繋ぐ～ボランティア元年からの防災・災害対応と技術の最前線～」	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構	1月10日	兵庫県立神戸生活創造センター	<p>阪神淡路大震災継承事業として21年目を迎える競基弘賞授賞式の会場にて、自らが震災を経験した、災害対応ロボットを開発する研究者等が直接体験を語り、突如として起こる大災害に巻き込まれる様子を現実のこととして伝え、亡くなった若き研究者(当時神戸大学大学院生)や亡くなられた方々の思いを繋ぎ続けている事業。同時に、ボランティア元年と呼ばれるこの震災から発展し続ける、防災・減災・災害の最前線の情報も発信していく。その成果は技術的な面やマンパワー的な面等様々な角度からの発信となっており、毎年震災の時期に災害現場の第一線で活動している10代～40代位までの研究者や関係者を神戸の地に招くことも直接阪神淡路大震災の生々しさを肌で感じていただける相乗効果を生んでいる。この催しは神戸市民のみならず、国内の広域・海外へも発信しているため結果として海外の若い世代へも広く語り繋ぐ機会となっている。</p>	70

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数(実績)
神戸	全県	阪神・淡路大震災30周年メモリアル・シンポジウム: 「あの時、神戸から始まった食の防災・減災」	「あの時、神戸から始まった食の防災・減災」災害時避難行動実行委員会	8月23日～8月24日	甲南女子大学 兵庫県立大学神戸防災キャンパス 神戸震災メモリアルパーク 人と防災未来センター	本シンポジウムは、阪神・淡路大震災から今日までの「災害食」の変遷を辿ると同時に近い将来発生が懸念されている首都直下型地震や南海トラフ巨大地震、昨今の気候変動に起因する台風の大型化やゲリラ豪雨の頻発化に対する備え、特に「食」の取組みを強化するための課題について話し合われた。	247
神戸	全県	災害時の課題解決アイデアブラッシュアップフォーラム	認定NPO法人しみん基金・こうべ	3月18日	中央区文化センター 他	能登半島地震後の状況によりこれまでの災害対応だけのボランティアからの脱却が必要との思いから、環境も教育も福祉も日常の市民活動時にそれぞれの分野の団体がそれぞれのフィールドでの災害時の活動について思いを致す機会を作ることを目的とし昨年度からアイデア公募顕彰事業を実施している。昨年度1回実施したブラッシュアップの2回目とその冊子化、今年度の公募とその顕彰提案のブラッシュアップを実施した。	30
中播磨	地域	ラジオで学ぶ防災・減災『あなたの防災』2025	GENKI防災研究所	9月1日～9月26日	株式会社姫路シティFM21(FM GENKI)	元神戸市職員(建築住宅局)、姫路市職員(危機管理担当)、元自衛官(防災担当)らにそれぞれの阪神・淡路大震災を振り返ってもらうとともに、各機関において震災がどのように総括されその後の防災対策や災害支援に活かされたのか、さらには南海トラフ巨大地震や山崎断層帯地震を見据えた課題など、次世代に語り継ぐべき体験や提言を発信するラジオ番組を制作し、中・西播磨地域に発信した。	45000
神戸	全県	震災31年・経験と教訓の継承 リメンバー神戸プロジェクト	リメンバー神戸プロジェクト	6月1日～12月20日	WALL GALLERY	震災から30年、災害の痕跡は消え、体験者は半減、「震災遺構 神戸の壁」は体験を伝え、災害を繰り返さないことを継承する道標として生きている。更に継承活動により発展させて、震災を伝え活かして、「遺構の大切さ」「学んだ備え」を全国に発信。 震災31年継承「遺構神戸の壁保存、継承発展と歌展」開催継承発展として東日本大震災、能登半島地震の遺構保存の進捗に役立てる。	1600
神戸	全県	第10回壁がなければ闇夜に地の鳴れど	壁がなければ実行委員会	2月13日～2月24日	こうべまちづくり会館、 コープ自然派兵庫つどうスペースめぐる	阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼し震災を思い起こすことをテーマとした平面及び立体作品の展示、音による表現などを行い、障がいのある方も気持ち合わせながら、防災に思いを巡らすことを体験してもらった。 地域の方々にも、分け隔てなく共に防災に思いを巡らして日常生活の一部として取り入れようということを提案できた。	940

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
阪神南	全県	アルカイツク防災訓練コンサート2025	公益財団法人 尼崎市文化振興財団	9月5日	あましんアルカイツクホール	本公演は、演奏会中に災害が襲ってきた場合を想定し、参加者全員で避難訓練を行うことで、市民の防災意識を高めることを目的とし実施。 第1部の防災講演では、尼ロックと呼ばれる尼崎閨門の役割について志築芳和氏に講演いただき、第2部の防災訓練コンサートでは、陸上自衛隊第3音楽隊の演奏会中に地震が発生した想定で、演奏終了後、シェイクアウト訓練から会場外への避難までを参加者全員で行いました。避難訓練後、お客様からは実際にコンサートホールで避難訓練を体験することができ勉強になったと意見があった。 その他、ホワイエでは、自衛隊兵庫地方本部西宮地域事務所協力のもと、防災パネル展や制服試着コーナーを設け、自衛隊の活動をご覧いただきました。 今後も参加型の防災訓練を実施し、市民の防災意識向上に繋がるような公演を継続していきたい。	375
神戸	全県	1.17は忘れない。防災・減災 まちキャラパークin KOBE 2025	まちキャラパーク実行委員会	9月20日	東遊園地	はばタンやご当地ヒーローと共に防災・減災を家族で学ぶイベントを開催。 防災グッズやマイタイムラインなど南海トラフ大地震に備える大切さを伝える。 (1)はばタンの防災・減災ステージ(防災グッズ・マイタイムライン等) (2) 南海トラフに備えるかぞく避難ステージ (3) 未来特救ゴッドイーグル共助ステージ(シェイクアウト。AED・共助等)	740
神戸	全県	難病患者と災害支援南海トラフ巨大地震難病患者はどう備えるか～津波被害を想定外としないために～	一般社団法人兵庫県難病団体連絡協議会	11月16日	あすてっぷKOBE セミナー1,2	①「阪神・淡路大震災～その教訓は活かされているか～」 室崎 益輝 ②「南海トラフ大地震など自然災害への備え」 向井 潤 ③「能登半島地震における支援と今後の取り組み」 山本 富士夫 ④「災害時医療支援船事業法制化 内閣府が行った実証訓練の報告」 赤塚 東司雄	62
神戸	地域	1.17KOBEに灯りをinながた	1.17KOBEに灯りをinながた実行委員会	1月17日	JR新長田駅前広場	①小中学校における震災、防災学習とろうそく作り ②1月17日追悼行事における「1.17ながた」とろうそく文字の作成 ③学生合唱 ④学生ボランティアの募金活動 ⑤ボランティアによる炊出し ⑥「1.17KOBEに灯りをinながた」活動パネル作成、展示	1500
東播磨	全県	2025ひょうごまちなみガーデンショーin 明石「地震に学ぶ防災」	2025ひょうごまちなみガーデンショー実行委員会	9月27日	兵庫県立明石公園	2025年、ひょうごまちなみガーデンショーは33回目を迎える。日頃ガーデニングや防災に馴染みのない親子や高校生など若者を対象としたイベント「地震に学ぶ防災」を開催し、次代を担う子ども達の防災意識の向上を目指す。 兵庫県園芸・公園協会の管理する7公園は地域防災拠点公園に指定され、三木総合防災公園では防災備蓄品の備蓄も行っていることから、今回行う地震に学ぶ防災 事業では、「地震に学ぶ防災」をテーマとして、参加の親子やハイスクールガーデン参加の高校生達に地震の経験や教訓を伝えることとし、阪神・淡路大震災から30年の節目に発行された「bosai100年えほん」を活用した絵本読み聞かせや、起震車体験、災害及び防災パネル展示等を通じて、経験や教訓の伝承を図っていく。 当該 事業を通じて、子ども達が楽しみながら、地震防災の伝承に繋げる取組とする。	500

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
阪神南	全県	日本災害復興学会 2025年度阪神大会	日本災害復興学会	10月11日～12日	関西学院大学 西宮 上ヶ原キャンパス H 号館	日本災害復興学会2025年度阪神大会は、阪神・淡路大震災30年の節目に、本学会設立の原点である関西学院大学で開催する記念大会である。初日は、分野横断的なテーマの分科会と全体会を実施。2日目は、若手研究者等による口頭発表に加え、「国難災害にむけて、その知的遺産をいかに活かすか」をテーマにする「阪神・淡路大震災30年記念シンポジウム」を開催。研究者、復興実務者、地域住民が一堂に会し、現研融合の議論を行った。	232
神戸	全県	「災害時におけるより 良い支援のあり方を 考える」 社会貢献学会第16回 大会 フォーラム	社会貢献学会第16回 大会実行委員会	11月29日～30日	神戸学院大学ポート アイランド第一キャン パス	社会貢献学会は、災害時における支援活動を中心に研究・活動する学会であり、社会貢献・ボランティアに関わる研究成果を社会へ広く還元している。 今回は「東日本大震災から15年目の復興のあゆみと現状について」をテーマとし、望月亮一郎氏(国際協力NGO ワールド・ビジョン・ジャパン)、合田七海氏(まぐる屋明神丸・社会防災学科1期生)、中田敬司(神戸学院大学 教授)をパネリストとしてお招きし、船木伸江(神戸学院大学 教授)のコーディネートのもと開催した。東日本大震災から現在に至るまでの歩みをそれぞれの立場や経験から振り返るとともに、今後の展望について議論を深め、「復興とは何か」を考えた。また、NPO法人映像記録によるワークショップ「災害を伝える映像づくり講座」を実施した。参加者は、映像編集の実践を通じて、災害映像の役割や伝えることの意義について考えた。	500
神戸	全県	イザ！カエルキャラバン！ In藤原台みんなの祭り2025	藤原台みんなの祭り 実行委員会2025	10月19日	エコール・リラ・ショッ ピングセンター3階ふ れあいひろば	<ul style="list-style-type: none"> ・イザ！カエルキャラバン！ ① 阪神淡路大震災記録パネルの展示(人と防災未来センター) 阪神淡路大震災記録の展示と防犯啓もう(有馬警察署地域課) ② 防災体操 ③ 毛布で担架タイムトライアル ④ ジャッキUPゲーム ⑤ 防災倉庫な中身なあに？クイズ ⑥ 応急手当(ボイスカウト) ⑦ AED/心肺蘇生(北区救急ボランティア) ⑧ お家の防災グッズなあに？クイズ ⑨ 煙体験(神戸市北消防) ⑩ 非常食試食体験(藤原台防コミ) <p>・防災ワークショップをめぐり、スタンプを4つ以上集めたら非常食試食(防コミカレー)を獲得してもらった。 ・ワークショップオペレーター運営軽減のため、ハンズフリー小型メガホンの台数を増やしました。スタッフ、参加者に好評であった。 ・自治会会員の高齢化対策として、地域で活動しているボイスカウトがワークショップ運営に参加協力。おかげでスタッフの平均年齢がぐっと若返った。 ・人と防災未来センター、有馬警察地域課の協力で阪神淡路30年記録の展示をすることができた。 ・地域の救急ボランティアと北消防署の協力により、AEDなどの救急救命や煙テントの実施ができました。煙体験は特に好評であった。 ・広報活動には課題があり、自治会の回覧以外にも地域の小学校にチラシの配布をお願いしました。 ・藤原台防コミの協力により、炊き出しは温かい食事の提供ができた。</p>	658

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	あの日の経験を繋ぐ～防災ゲーム「クロスロード」で伝える阪神・淡路大震災(仮)	神戸クロスロード研究会	10月18日	三宮研修センター	<p>阪神・淡路大震災の体験から生まれた防災ゲーム「クロスロード」を使って、災害を体験していない若い世代や地域へ災害対応の体験を伝える。</p> <p>・現地会場には元舞子高校環境防災科長の諏訪先生や、マスコミ関係者、大学教員や行政職員など、オンラインでは全国各地から様々な属性の方にご参加いただいた。参加の目的も、クロスロードに興味があり体験したかったという方、クロスロードを体験してもっとよく知りたいと言う方、長く活用しているが開発経緯や使い方について参考になる情報を得たい等、様々であった。参加者の満足度は高く、今回改めてクロスロードの魅力や効果を感じた参加者の方々が、それぞれのフィールドでこのツールを活用していただくことで、防災に寄与することに繋がると考える。</p>	50
神戸	全県	防災市民サミット2025 & 防災ガイドブックVOL.11	防災市民サミット実行委員会	①防災市民サミット:10月18日②防災ガイドブック製作:1～3月	①神戸市男女共同参画センター(アステップ神戸)会議室②主催団体事務所	<p>①防災市民サミット2025 東日本大震災、熊本地震、能登半島地震被災地で復興支援に従事された民間ボランティアを招聘して、被災地の現状を知るための現地活動報告と、政府が準備を進める防災庁について、「防災庁創設に向けて」と題する学識者の講演を市民を対象に開催。</p> <p>②防災ガイドブックVOL.11 学校、職場、地域で実践できる最新の防災教育や被災地での支援活動を掲載した小冊子を製作し、県内外の教育委員会他、公共施設に頒布。</p>	121
神戸	地域	令和7年度東灘防災・安全のつどい	神戸市東灘防火安全協会	11月14日	神戸市東灘区文化センター	<p>東灘区民、事業所の防災力の向上及び防災意識の啓発を図り、東灘区の安全で安心なまちづくりを目指すため、神戸市東灘防火安全協会が主催する事業として開催。「災害への備え」をテーマに、講師を招き、災害に対する心構えや教訓について語っていただきます。また、あらゆる極限の環境を乗り越えた経験から、厳しい環境下でも諦めずに生き抜く精神力の強さの養い方についてもご教授いただいた。</p>	550
神戸	全県	キッズ防災検定	特定非営利活動法人検定協議会	12月1日～2月28日	兵庫県下の小学校	<p>小学生を対象とした防災検定で阪神・淡路大震災のような被害を繰り返すことがないようにという思いから「キッズ防災検定」は2009年度より開始し、今年で17年目となる。</p> <p>私たちは、小学生の頃から防災に対する意識づけを行い、災害への対策方法を学ぶことが、将来の地域の守り手として期待される子供たちにとって、非常に重要であると考えています。</p> <p>そこで、小学生の子どもたちに、防災に関する知識をより身近でわかりやすい形で学び、意識を高めてもらうことができるようキッズ防災検定を実施しています。</p>	13000

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	民団防災対策委員会事業「阪神・淡路震災30年事業」	韓国民団兵庫県本部防災対策委員会	9月28日～11月30日	ふたば学舎運動場他施設 兵庫韓国文化教育院会館、その他	1 防災の日事業で「港に灯がともる」上映会 & 討論会 ・震災30年を迎え、あらためてあの震災の教訓を全体で考え、学ぶために30年を機会に作成された映画「港に灯がともる」の上映会並びに監督、プロデューサーを招いて討論会を行う。 2 防災運動会 ・防災に関連する訓練を運動会形式で行うことにより、防災体験をみんなで共有し防災意識を高める機会とする。(水消火器、担架体験、バケツリレー他) 3 防災体験事業 ・防災に関する意識向上と対策力量強化のために防災施設での体験、学習を行う	150
西播磨	全県	西播磨フロンティア祭2025	西播磨フロンティア祭実行委員会	10月25日	播磨科学公園都市芝生広場	西播磨地域の連携・交流の促進と播磨科学公園都市の賑わい創出及び新たなスポーツ体験の提供やひょうごフィールドパビリオンの認知度向上、阪神・淡路大震災からの「創造的復興」理念の共有・継承を図ることを目的として、ステージイベントやブース展示等を実施。	16000
神戸	地域	心豊かな人づくり神戸500人委員会 備える、活かす、伝える	こころ豊かな人づくり神戸500人委員会	1月17日	ハット神戸なぎさ公園	「こころ豊かな人づくり神戸500人委員会」の支援活動のパネル展示、各区の防災ガイドの手渡し、備える防災ドリルを活用し、展示ドリルの解答及び解説を参加者と共に語り合う場を設けた。また、阪神淡路大震災時の体験や現状の備えについてお互いに話し合う場として交流を深めた。	200
阪神北	全県	防災フェア ～皆で守ろう わが街・いのち～	能勢口商業協同組合	12月6日	藤ノ木さんかく広場とポケットパーク	消防自動車、防災パネル等の展示、炊き出し訓練、非常食の試食、訓練使用の防災グッズ配布、川西市女性消防団員(チェリーファイアー)による防災啓発 地域住民や子供たちが気軽に参加できるイベントを実施することにより、多くの来場者があり災害発生時の心構えの醸成と防災意識の高揚を図れた。	600
神戸	地域	兵庫区防災フェスタ・震災の経験・教訓を次世代に繋ぐ	兵庫地区防火安全協会	1月11日	みなとがわホール	(1) 講演会 「対話がひらく防災まちづくり～震災の経験・教訓を次世代に～」 (2) 防災功労賞表彰式・消防団員表彰式 地域の防火防災に顕著な功績のあった事業所、防災福祉コミュニティ、個人、消防団員及び消防職員等を表彰し、区民等に広報する。(広報媒体: 広報こうべ兵庫区版 58,000部/月)	200
神戸	全県	1.17震災メモリアル行事「阪神・淡路大震災を忘れない～21世紀を担う私たちの使命～」兼ひょうごユース防災・減災ワークショップ	ひょうごユース防災・減災ワークショップ実行委員会	1月15日	兵庫県立舞子高等学校	本校生徒、中学生および地域住人が参加し、阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼するとともに、阪神・淡路大震災を体験した様々な分野の方から当時のお話を聞き、災害の理解を深めた。 全体会では追悼演奏と講演を実施した。阪神・淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震など過去の災害から学び、今をどう生きるかを考える時間となった。 分科会では、ライフラインや救助活動についてのお話を聞いた。その他に自衛隊と協力し、避難所での生活体験(テント・簡易トイレ・段ボールベット等)や炊き出しの試食などを体験し、災害時に何ができるか、その時に何が必要かを考えた。	1100

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
阪神南	全県	《第44回アルカディアイースターコンサート》 -ひょうご安全の日推進事業- 東日本大震災追悼コンサート-アルカディア追悼の祈りと希望のコンサート	公益財団法人アルカディア音楽芸術財団	3月12日	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	[曲 目] シューベルト ・アヴェ・マリア Op.52-6, D.839 G.ホルスト ・組曲『惑星』Op.32より“木星”(ジュピター) カッチーニ ・アヴェ・マリア モーツァルト ・ミサ・プレヴィス ニ長調 K.V.194(女声3部合唱編曲版)ほか [出 演 者] 指揮、フルート&プロデュース・中村 八千代 ソプラノ・寺本 郁子 オルガン&ピアノ・高瀬 芙紀子 ピアノ・内田 博世、大塚 紀子、和田 悠加 弦楽カルテット・カルテット・アルアディア	237
神戸	地域	防災イベント「みんなで“まなぼうさい”」	認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸	3月8日	ランチ神戸学園都市(まちづくりスポット神戸)	「いざという時に役立つ防災の知識をみんなで楽しく学ぼう!」をキャッチフレーズとし、NPO、企業、地域団体が連携して企画・運営する防災イベント『みんなでまなぼうさい』を開催。老若男女問わず、みんなで防災・減災について考える、また被災した方々に心を寄せるような多彩なプログラムを提供。具体的には、AED体験、ロープワーク体験などのプログラムに、スタンプラリー形式で参加(体験)を促す。また、実際に炊き出して非常食を食べたり、お菓子で「防災ポーチ」を作ったりしながら、食の備えについて考えるプログラムも用意。	1403
神戸	全県	ラテンクリスマス神戸2025 ~未来へつなぐ親子で学ぶ防災~	一般社団法人ひょうごラテンコミュニティ	12月21日	神戸市立海外移住と文化の交流センター	①ラテンアメリカでは大切な文化的・平和的な伝統あるクリスマスを祝う機会を作るため、ラテン的な会場設営、ラテン的なプログラム(ラテン音楽、ラテンの食、およびラテンのプログラムとしてのピエロのパフォーマンスやピニャータ(くす玉割り)など)を準備。 ②ラテンアメリカ諸国出身ではない地域の子どもたちにも、ラテンクリスマスを楽しんでもらうために、クリスマスの意味や、それぞれのプログラムについての内容を丁寧に紹介。 ③阪神・淡路大震災から30年が経過してその教訓を忘れがちなこともあり、また災害が頻発する世界の状況から、楽しいイベントの機会を活用して、あまり防災について考える機会のないラテン出身の住民たちに、日本で進んでいる防災教育を親子で経験する機会として、消防署や日本の大学生たちの協力を得て「親子で学ぶ防災教室」というゲーム感覚で楽しめるプログラムを企画。 ④メモリアル30年という節目に、来場者皆で、『しあわせ運べるように』をスペイン語で歌い、震災を経験していない人たちに防災意識を持ってもらえる機会とした。	200
北播磨	全県	犠牲者を追悼し震災をおもい起こす事業	神戸・心絆	1月17日、3月11日	・三木市立市民活動センター駐車場 ・名取市震災メモリアル公園内	竹灯ろうに浮かべるローソクも自分達で再生ローソクを作り1月17日には東日本大震災の被災者と、能登半島地震の被災者を迎えて追悼式を開催。又、3月11日には兵庫県から希望の灯りを持参し、神戸・心絆メンバーも現地へ行き、竹灯ろうで追悼式を実施。	250

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	ビジョンバン眼科災害医療	兵庫県眼科医会	1月17日	HAT神戸 なぎさ公園	眼科医療支援車両「ビジョンバン」の展示、災害時における眼科医の活動紹介、視覚障害者向けの備えや避難行動を促すチラシ配布。 災害時にも眼科医療を安心して受けられる体制があることを県民に周知できた。また視覚障害者が災害時に直面する課題への認識が広がり、地域における支援意識の向上につながった。	350
神戸	全県	神戸防災のつどい2026	NPO法人 兵庫県防災士会(神戸防災のつどい参加準備委員会)	1月18日	神戸市中央文化センター 11階	2026年1月18日に開催される「神戸防災のつどい2026」にて、「共助」をテーマにセミナー&パネルディスカッションを行った。 参加している方々にとって、30年前の共助を踏まえながら、現在との社会の違いを考え、現代の共助のあり方を考えるきっかけとなった。	66
阪神北	全県	負けない 忘れない 3.11 ここから生まれる未来・びっくり箱 Part.15	「みんな元気になろう・びっくり箱」実行委員会	3月8日	宝塚市立文化施設ソリオホール 及びソリオ1	ソリオホールで3団体5公演、小会場で6団体8公演、ホール外でのイベントで2団体4公演を実施した。開催前には出演団体による活動の展示や、阪神淡路大震災で記録された写真と同じ場所を訪れるプロジェクトを展開し、当日に今昔の写真展示を実施。震災シンポジウムには関西で活動する表現者3名をお迎えし、震災の語り部として震災当時の活動を紹介しながら、当時の記憶を観覧者と共有した。 ファミリー層を対象に会場は複数箇所それぞれで賑わった。ワークショップや人形劇で楽しんでもらうとともに、おもちゃや洋服の交換会も実施し、回遊効果のある仕組みを展開した。また、ふあみりい劇場による「あそびの広場」は気軽にゲームや工作を楽しんでもらうとともに休憩所としても機能し、来場者の滞在時間に効果を得た。震災シンポジウムや写真展示を通して、来場者への防災啓発および震災当時の記憶継承に貢献できた。	542
神戸	全県	神戸防災のつどい2026	神戸防災のつどい実行委員会(旧災害対策セミナー実行委員会)	1月18日	中央区文化センター、神戸・三宮センター街など	・行政、企業、学生団体など多くの主体が連携して、阪神・淡路大震災の復興過程で得た経験や教訓を学ぶ場を提供し、様々な視点から防災・減災について発信した。 ・専門的な防災セミナーのほか、誰でも参加できるワークショップやブース展示を実施することで、子育て世代をはじめ幅広い世代に発信することができた。特に不特定多数の来場者が訪れる三宮センター街会場では、日頃防災に関心を持たない人たちにも、震災を振り返る写真展示、家庭での備蓄や住まいの耐震化の大切さを伝えるワークショップなどに参加いただく機会となった。 ・福島県にある大学と連携したブースでは、東日本大震災をテーマにした絵本の読み聞かせを実施するなど、地域を越えて震災の教訓を伝える取り組みも展開した。また、中央区文化センター会場では、複数の学生団体がワークショップなどを行い、震災を知らない若い世代が防災・減災について発信する姿を多くの方に見ていただいた。 ・2会場の回遊性を高めるため、防災グッズ等が景品で当たるシールラリーを導入し、約200名の方に参加いただいた。多くの方に各会場・ブースを見ていただいたことで、さまざまな防災の取り組みを発信することができた。	6100

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
阪神南	全県	関西学院大学 災害復興制度研究所 2026年復興・減災フォーラム	関西学院大学 災害復興制度研究所	1月10日、1月11日	関西学院会館	復興・減災フォーラムは、「頻発する激甚災害からの人間の復興—被災者・被災地の尊厳を守るために」をテーマに全国被災地交流集会「円卓カフェ」とシンポジウムを行った。全国の被災地支援者・研究者が復興知を共有し「人間の復興」の理念を深化させた。被災者・被災地の尊厳を守る実践事例を通じて、今後の災害復興に向けた新たな知見を創出した。	182
神戸	全県	PRAY FROM KOBE 2026～明日につなげるコンサート～	兵庫県合唱連盟	1月18日	1/18 神戸文化ホール大ホール	部門毎(少年少女、中学・高校、女声、一般)及び東日本大震災の被災地から招聘した合唱団とともに合同演奏を行い、最後に会場全員で被災地に向けて全体合唱を行う。また、兵庫県理事長と宮城県副理事長等の方々による、「震災の記憶を風化させないために」と題して、シンポジウムを開催	362
神戸	地域	第19回「防災を考える区民のつどい」	神戸市灘防火安全協会	3月1日	神戸市立王子動物園・動物園ホール	(1)動物園駐車場 ・最新の地震体験車による地震体験 ・消防車両の展示 ・子供用防火服の試着、写真撮影 (2)動物園ホール ・第47回「灘防災の賞」表彰式 ・防災講習会～被災者に寄り添う食と身体のケア～ 神戸学院大学「防災女子」 神戸松蔭大学「KBS [®] にこかま(神戸松蔭防災スタッフ)」 災害食の試食会(パッククッキングの蒸しパン、被災地に寄り添う薬膳茶) ・防災コンサートとチアダンス (3)動物園ホールロビー ・子供向けに防災クイズ ・火災予防広報(住宅用火災警報器、モバイルバッテリー火災)	530
神戸	全県	「被災地から学ぶ」学習会	兵庫手話通訳問題研究会	3月1日	神戸市障害者福祉センター 会議室AB	講師 弁護士、兵庫県震災復興研究センター 共同代表 公益社団法人こども財団理事長 津久井進氏 テーマ「まち弁護士の30年@被災者と共に」 講師 山村 妙子氏 テーマ「震災の記憶」	86
神戸	全県	阪神淡路大震災1.17のつどい	阪神淡路大震災1.17のつどい実行委員会	1月17日	東遊園地	1月17日に神戸市中央区の東遊園地で竹灯籠を並べて「1・17」の文字を描き、参加者に灯りを灯してもらうとともに、5時46分・17時46分に震災犠牲者に対し黙祷。会場内にボランティアの方たちやご遺族、また震災を経験していない若い人たちが共に集うことによって、震災経験を次世代に伝えていく語り継ぎの場とした。	75000

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	全県	慰霊と復興のモニュメント震災を忘れないブースの設置と銘板追加式典	NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り	12月14日～2月8日	慰霊と復興のモニュメント	阪神淡路大震災の鎮魂と復興を願って毎年開催されている神戸ルミナリエの開催期間中に、主催団体である「神戸ルミナリエ組織委員会」と協働で、メイン会場である東遊園地にある「慰霊と復興のモニュメント」内にて、震災を知らない若い世代が中心となって来場者の方々に震災の出来事を語り継ぐことのできる場所として設置・運営。銘板追加式典では震災で亡くなられた方や関係者など新たに12名を追加し、掲示総数は5,082人となった。 また、神戸ルミナリエ開催期間に合わせて「震災を忘れないブース」を設置し震災を知らない若い世代が中心となって、訪れる人々に語り部活動や防災グッズのワークショップを行った。	2500
神戸	地域	みんなのぼうさいたいかい	特定非営利活動法人兵庫県子ども文化振興協会	2月23日	神戸市立灘区民ホール、灘消防署	●震災を語り継ぎ、子どもの命を守る防災について家族で考えるきっかけになるイベントの実施。 【都賀川公園】10:30～12:00 ・灘消防署による消防訓練（避難訓練、救助訓練、放水訓練等） 車両展示等 ・自衛隊による炊き出しの実施 車両展示等 【灘区民ホール】11:00～16:00 ・ぼうさいクラフト「ビニール袋ボンチョ」「紙食器づくり」タオルで人形づくり ・ぼうさい人形劇 ①13:00～13:40 ②15:00～15:40 「ガタガタ村と大ナマス」他 人形劇団ポップコーン ・企業出展 コープこうべ 保存食、防災グッズの紹介 萩原珈琲店 被災時にもホットできるコーヒーの紹介 ・都賀川水難事故のパネル展示 ・ぼうさいクイズコーナー「持ち出し品クイズ」「なまずの学校」 ・めりえ・絵本コーナー ・手話付き災害動画のご案内 【灘消防署】11:00～16:00 ・災害VR体験 ・制服着用コーナー ・潜水艦ゲーム 他 【スタンプラリー】 各会場のブースをめぐってスタンプを集めると、防災グッズをプレゼント。	388
神戸	全県	1.17鎮魂と語り継ぐために 第26回特別演奏会	公益社団法人アンサンブル神戸	1月24日	神戸新聞松方ホール	神戸市民からなる「神戸21世紀混声合唱団」と関西を代表するオーケストラ「アンサンブル神戸」による演奏でドイツの作曲家J.ラインベルガーのレクイエム他を演奏。この演奏会には様々な災害に遭遇された方々を70名招待。震災で亡くなられた方々への鎮魂と、震災の記憶を次世代に伝えることができた。またこれから起こるであろう南海トラフ地震に対する防災意識を高めることができた。 管弦楽 アンサンブル神戸 合唱 神戸21世紀混声合唱団 ソプラノ 麻本かれん アルト 柳直友子 テノール 廣瀬響 バリトン 鈴木正彰 指揮 矢野 正浩 当日ホールロビーにて神戸大学名誉教授、田結庄良昭氏による河川洪水に対する防災対策をレクチャー。	500

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
神戸	地域	阪神・淡路大震災復興祈念とんどまつりを通じて安全・安心な街づくり	特定非営利活動法人大原・桂木OKサポート	1月18日、3月29日	①大原山公園グランド(1月18日) ②神戸市立桂木小学校体育館(3月29日)	<p>1.令和8年1月18日(日)【とんどまつり、防災訓練】 当地域では、阪神淡路大震災への鎮魂と街の復旧・復興の願いを込めて「1月17日」を決して忘れることのないように、また、次世代の子どもたちに災害の恐ろしさ、人と人との強い絆づくりの大切さをこの行事を通じて培う。例年同様に、「希望の灯り」を使っての行事を実施。この事業には、自治会、管理組合、地域内各種団体も参加しての防災訓練として位置づけ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火訓練 ①子ども達による消火活動(バケツリレー) ②炊き出し訓練 ・防災福祉コミュニティ・中学生ボランティアによる炊き出し訓練 <p>2.令和8年3月29日(日)【地域住民による安否確認・避難所運営訓練】 地域防災計画を策定(お助けガイド)しており、それをもとにして、神戸市と協定をしている要援護者支援台帳を活用して災害時における住民の安否確認と避難誘導を毎年訓練している。今年度も要援護を必要とする高齢者、障がいの方々(いわゆる災害弱者)を各自治会の班単位で住民協力の下、安全な場所(避難所)へ避難誘導をする。安否確認訓練では、民生委員、友愛訪問ボランティア、地域住民ボランティアによる協力体制を構築し、避難者と支援者とをマッチングさせて避難する。また、地域の緊急非常連絡体制(緊急連絡システム)の活用での情報伝達にはLINE登録により避難状況や被害状況をLINEで報告する訓練を実施。</p>	2000
神戸	全県	1.17は忘れない～アスタスティーレパンコンサート2026	アスタ新長田スティーレパン振興会	3月15日	神戸市立長田区文化センター別館 ピフレホール 大ホール	<p>*復興事業の一環として誕生した地元新長田市民スティーレオーケストラ“Fantastics”による演奏及び過去の被災地支援の紹介。</p> <p>*アスタ新長田スティーレパン振興会が運営するスティーレパンスクールの受講生約90人による演奏。</p> <p>*「しあわせ運べるように」を歌唱+スティーレパンアレンジで演奏、会場で一体となって合唱し、震災の記憶の風化を防止を目指した。</p> <p>*防災啓発活動の一環として、防災クイズを行う。配布するプログラムにクイズを掲載し、コンサートの休憩時間に答え合せと解説を行った。</p>	370
-	全県	公開シンポジウム & 上映会「阪神・淡路大震災31年 守りたい、だから伝える」	関西民放NHK連携プロジェクト	2月23日	人と防災未来センター こころのシアター	<p>昨年、阪神・淡路大震災30年を機に発足した「関西NHK民放連携プロジェクト」。関西の民放6社とNHKが局の垣根を超え、“震災の記憶と教訓の継承”と“一人でも多くの命を守るための災害報道”に取り組んでいる。</p> <p>今年度のテーマは南海トラフ巨大地震。最短2分で津波が到達すると想定される和歌山県・串本町で毎年11月に実施される住民の避難訓練に各局の記者やアナウンサーが参加し、避難の課題を体験し、各局がニュースで放送。過酷な想定に“避難をあきらめてしまう人”がいる厳しい現実も知った。</p> <p>この1年間の成果を広く市民に伝える市民シンポジウムと震災31年特集企画上映会を人と防災未来センターで実施、避難訓練や各局のニュース企画、意見交換会などの取り組みを紹介しながら、“あきらめない避難”を目指して、自治体、住民、メディア、専門家がともに語り合った。</p>	102

令和7年度ひょうご安全の推進事業助成金交付決定一覧表【全県・地域事業】

県民局	事業区分	事業名	実施団体名	実施日	実施場所	主な実施内容	参加人数 (実績)
-	全県	防災・減災シンポジウム(2026) 第19回災害対策セミナー	公益社団法人 日本技術士会近畿本部	1月18日	神戸市中央区文化センター	<p>テーマ:「過去の大規模災害の振り返りと南海トラフ地震時の被災者の生活を考える」</p> <p>講演①「被災者・行政職員として見た被災者の生活の課題と復旧・復興の問題点」 ～令和6年能登半島地震および奥能登大水害・発災2年を振り返って～ 講師:石川県輪島市市民生活部 課長 友延和義氏</p> <p>講演②「被災者・行政職員として見た被災者の生活の課題と復旧・復興の問題点」 ～平成28年能本地震・発災10年を振り返って～ 講師:熊本県西原村 元副村長 内田安弘氏</p> <p>話題提供「10年後の気象と被災者の生活」 話題提供者:日本技術士会近畿本部 技術士</p> <p>■パネルディスカッション <基調講演者、話題提供者、会場参加者、WEB参加者によるパネルディスカッション></p>	124
神戸	全県	阪神・淡路大震災31年メモリアル集会	阪神・淡路大震災救援・復興兵庫県民会議	1月17日	神戸市立 長田区文化センター大会議室	<p>阪神・淡路大震災31年を迎え、災害被災女性に視点をあてて、ジェンダー平等がいかに蔑にされてきたか、その実態と助成・支援のあり方を問う企画とした。</p> <p>記念講演「歴史から学ぶ災害女性学」 元宮城学院女子大学教授</p> <p>1996年から毎年1月17日に拘って、阪神・淡路大震災メモリアル集会を開催し、被災地・被災者の実情、公的支援のありかたについて講演・報告交流をおこない、被災地はもとより災害被災者支援と災害対策全国連絡会(全国対連・30団体)などを通じて風化を止め、備え伝え繋ぐ取り組みとなっている。</p>	150
阪神南	地域	にしのみや親子防災フェスタ	NPO法人 a little	1月23日	阪急西宮ガーデンズ 4階ガーデンズホール	未就学児のいる家族向けに楽しみながら学べる防災イベントを開催 子育て支援団体による出展、ステージ、ミニフォーラム、炊き出し、パネル展示等を実施	350
阪神北	全県	バレエ×音楽×カンフー『第2回・防災チャリティ公演』	宝塚プロジェクト	2月28日	宝塚ベガホール	<p>県内の支援学校を卒業した団体ハンドベル『ポップンリンガーズ』、地元・宝塚市の『宝塚ヴァイオレット・エコ』、世界的バレエダンサー「針山愛美」、国内で活躍中で阪神大震災でヴァイオリンが解体し復元により公演などで支援活動を実施のヴァイオリン奏者「木田雅子」、神戸市の文化の活性化に活動中のフルート奏者「下田幹」、ひょうごアーティストサロン賞受賞・声楽家「田中郷子」、兵庫県出身で現在は東京で活動中の20代演奏家・ピアニスト「野々村佑香」、国民体育大会武道太極拳第1位、JOC(ジュニアオリンピックカップ)1位などを取得のカンフーの若手アスリートなどの公演を実施。</p> <p>阪神大震災より経験により、学生から60代までが共演し、震災などの自然災害が起きた時に自助・共助・公助についてを公演の間に取り入れつつ、もしもの時の為に、自宅にあるグッズの防災道具とは?などをクイズ形式で取り入れるなどにより、災害時の心得を観覧の方々に学んで頂く公演も実施。</p>	300